

西武信用金庫理事長
落合 寛司さん (60)



■おちあい・かんじ 1973年西武信用金庫入庫。2002年常務理事、05年専務理事などを経て、10年6月から理事長。金融庁や経産省の公務にも携わる。神奈川県出身。

トップは語る

— 地域、個人、中小企業支援が事業の柱だが、特に中小企業支援のビジネスモデルが目まぐるしく変わっている。「金融自由化で銀行との業務の差がなくなり、信金は独自性を持たないと生き残れなくなった。約10年前、原点の相互扶助の精神に立ち返り、『お客様支援センター』という考えを打ち出した。『売上げを伸ばしたい』『相談相手が欲しい』などのニーズに応える一方、金融機関しか持っていない企業属性などの貴重な情報を活用し、さまざまなサービスを生み出した。単純にお金を預かったり貸したりするだけでなく、問題解決型・提案型のビジネスモデルを実践している」

— 具体的には「販路開拓や技術提携を目指したビジネスマッチングや、情報交流の場であるイベントセミナーなど多岐にわたる。東京・新宿で開催したビジネスフェアや物産展など、1日に1000件以上成約を実現するなど、高い評価をいただいているイベントもある。社会貢献活動など公共性の高い事業を営んでいる企業などに対し、支店の空きスペースを安い賃料で提供するインキュベーションオフィスも好評だ。産・官・学・金融と連携して多方面から支援したり、中小企業診断士や税理士、会計士など専門家と提携し、優良企業がさらに強くなるための経営管理の手法を提案している」

— その結果、融資が伸びている。「互いがウィン・ウィンの関係になり、前向きな資金需要が生まれるからだ。それだけでなく、お客さまの資産管理にも力を入れており、必要なときに借りられる環境をつくることに気を配っている。経営の合理化を進め、競争力のある金利で融資できているのも要因だろう」 (小島清利)

独自の手法で中小企業の悩み解決

[HP掲載ページ](#)

[会社情報](#)